

地域に愛され136年 ~はげみつつきずかん この里~



上切田小学校閉校式典



出席者全員でにこやかに記念写真

未来に向かって

11月22日、今年度で136年の歴史に幕を下ろす上切田小学校（相馬寿津子校長）が同校体育館で閉校式典を行いました。

式典には、卒業生ら約350人が出席。相馬校長は「子どもたちは、伝統を守り、本校最後の児童としての使命を果たそうと日々最善の力を尽くしてきました。これからもたくさん勉強し、ふるさと切田、十和田市のために活躍する人になると信じています」とあいさつしました。

続いて、歴代校長ら27人に感謝状の贈呈が行われた後、全児童19人が登壇し、『未来に向かって』と題した呼び掛けを発表しました。児童は、地域のかたがたと共に行ってきたこれまでの行事などを振り返りながら「ここで過ごした素晴らしい思い出を胸に、ぼくたちは新しい一歩を踏み出します」と宣言しました。

明治12年の開校以来、今年度で2608人の卒業生を送り出す同校。来年度から下切田小学校に統合され、切田地区一体となって新たな一歩を踏み出します。



1



2



3



4



5

Interview



児童会長 久保大知くん（6年生）

素晴らしい思い出がある学校がなくなるのは悲しいことです。でも、地域の皆さんと協力して行ったいろいろな行事や活動の楽しい思い出があります。一生印象に残る思い出になると思います。

上切田小学校、そして、上切田小学校に関わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

1 全校合唱『ARUKI☆DASOU』

2 卒業生も一緒に懐かしの校歌斉唱

3 多くの児童を見守ってきた校舎

4 在校児童の未来の夢

5 感謝を込めて伝統の駒踊りを披露

6 記念品のなべ敷き。同校は、昭和24年当時、約37.6畝で始まった学校林を通して自然教育を実践。このなべ敷きは、児童も伐採を手伝い、樹齢30年の杉の間伐材で作られました



6

